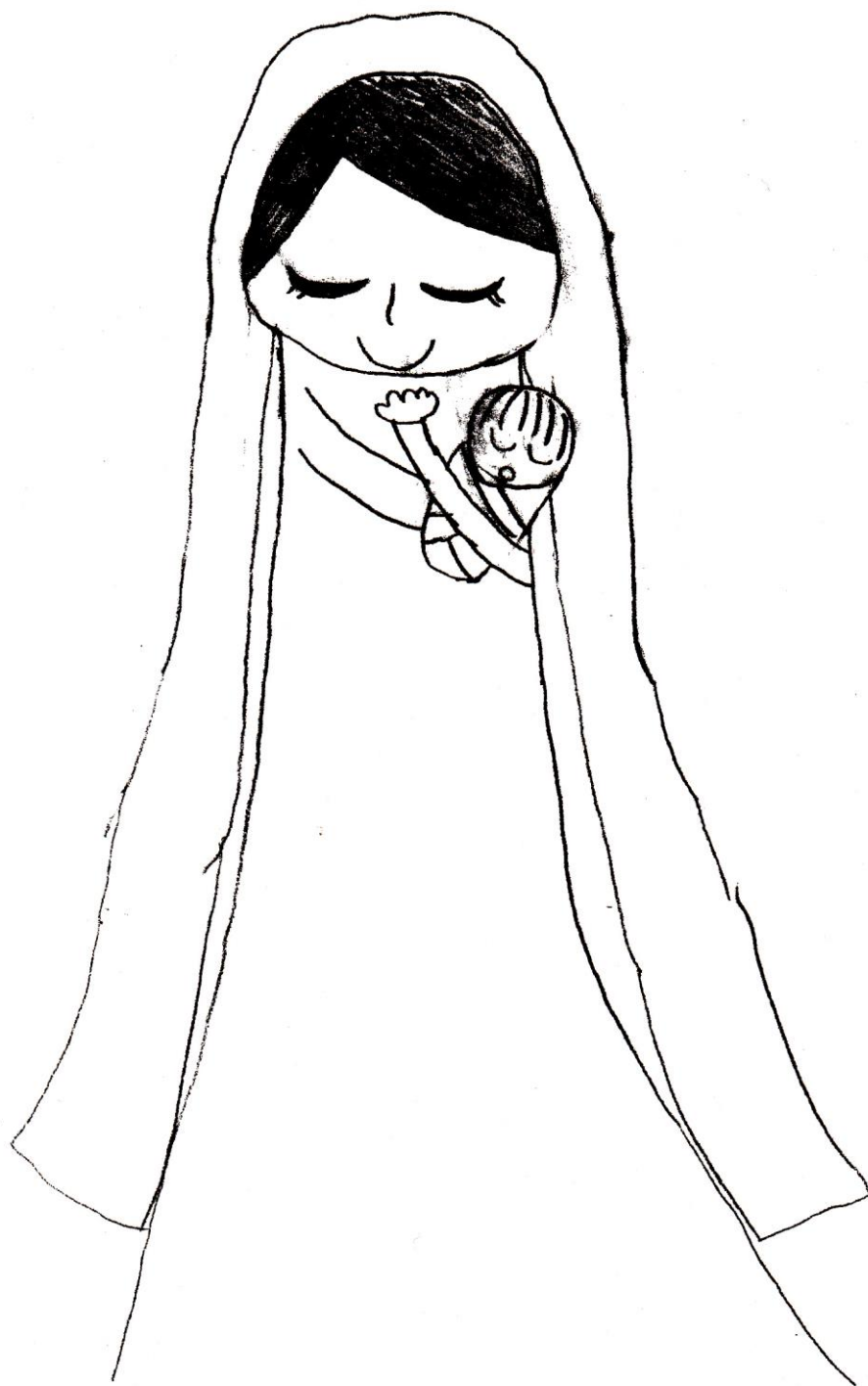


すみよし



2014 被昇天号 第193号



聖 句



見よ、そのとき主が通り過ぎていかれた。
主の御前には非常に激しい風が起こり、山を裂き、岩を砕いた。
しかし、風の中に主はおられなかった。

風の上に地震が起こった。
しかし、地震の中にも主はおられなかった。

地震の上に火が起こった。
しかし、火の中にも主はおられなかった。

火の上に、静かにささやく声が聞こえた。
それを聞くとエリヤは外套で顔を覆い、
出て来て、洞穴の入り口に立った。

列王記（上） 19 章 11-13 節

共同訳聖書

選：H. Y.



[目次](#)

《信仰とは何か》

—信仰と想像は同じではない—

傘木 澄男 神父

私たちは信仰を人びとに説得力ある言葉と証しによって宣べ伝え、同時に次世代の若者たちに信仰の遺産を受け渡していくために、何よりもまず自分たちが、祈りと典礼と教への勉強によって信仰をしっかりと身につけることが大切で、教会もそれを私たち一人ひとりに強く求めています。そこで、信仰について信者が陥り易い、そして現に陥っている一つの重大な誤りについて、これは信仰講座でも何回かお話ししたことです。大事なことです。本誌で一度取り上げて、考えてみたいと思います。

その誤りというのは「信仰は想像力でも想像の所産でもない」ということです。即ち、神様はどういうお方か、天に帰られた復活の主キリストはどんな状態におられるのか、天国・煉獄・地獄とはどんな所か、そして最後の審判とは等々、これら超自然の事柄を私たちは当り前のように想像で思い描いて理解したつもりでいますが、信仰はそれとは違うということです。「神は無限者であるから、有限な人間の考えで思い描いて捉えることも、人間の言葉で言い表すこともできない」とは、教会の重要な教義です。例えば数えられる最大数を想像してみよと言われても、それは不可能だと直ぐ分かります。どんなに大きな数を考えても、常に有限で必ず次の一つがありますから、最大数は考えられません。これは理屈ではなく、信仰とは何かを知るのにとっても大切なことです。

私たちは信仰と想像を同じものと考えて、想像力が弱いことを信仰が弱いことと、神の存在が想像できないことを無神論や不信仰と、同じだと見てしまっています。或る時は祈りの内に信仰の高揚感を覚えて神の存在と信仰の確かさを強く感じ、或る時は不安に捕らわれて神の存在がどうしても思い描けず信仰が消え失せてしまったと感じる、という様なことがあります。その場合前の時は強い信仰があったが後の時は信仰が無くなった、ということなのでしょう。そうではありません。前の時は強い想像力が働き、後の時はそれが弱まったというだけのことです。つまり神に対する信仰を、神を想像する力と一つにしてはならないのです。神は体験し知ることにはできますが想像で思い描くことはできません。できたと思っても、それはあくまでも想像であって信仰ではないのです。

神はキリストにおいて告げられた「万物を無から存在させる神秘」としか言えない存在です。預言者イザヤは神を幻視の内に見た時、「聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主」と、吃るように叫ぶだけでした。イザヤの「聖なる」は、神の言い表し難い超越性と他者性、人間との完全な相違、即ち神が想像を絶対に超越する存在であることを言い表します。その神を想像によって思い描いてそれを神だと考えるならば、神の似像(にすがた)に造られたはずの私たち人間が、信仰の名のもとに想像で神を自分の似像に造り上げようとする不条理を犯していることとなります。その様な神はイエスの啓示した神とは全く違うもので、実際、この様にして想像で造り上げた神の名において、人間はしばしば暴力やテロや殺戮、あらゆる悪行を容易に正当化してしまっています。それは宗教原理主義者だけでなく、すべての宗教やイデオロギーにおいて様々な形で起こっていることです。

それでは、想像に頼らないで私たちはどの様にして神への信仰を持つのでしょうか。私たち人間は想像によるイメージや人間の概念と言葉と論理を用いて神について考え、理解し、説明することしか出来ませんから、聖書も教会も普通にそれらを多用しています。ですから私たちは教会が長い年月をかけて賢明・慎重に作り上げたこれらの手立てを用いて神と超自然の事柄について考え理解し祈ることは全く妥当なことです。しかしながら、その様にして得た理解を言わば絶対化して、それが神や超自然そのものであると考えてはならないのです。真の神は常にその遥か彼方に人間の理解を完全に超越しておられるのだということを忘れてはなりません。そこからが真の信仰の世界なのです。想像ではなく、この信仰によって初めて私たちは神に真に到達するのです。

この信仰について神学者が言うことを聞きましょう。「信仰は頭にも心にもなく、その人の生きざまにある。どこに住んで、何をしているか、何に身を捧げて、どのように行動しているか、愛をもって正しく生きているか、これらが信じているか否かを究極的に決定するものである。」信仰の達人たちは、たとえ頭と心で神を想像することも理解することもできず、そのためにどんなに深い苦悩に落ち込んでも、その信仰は弱まるどころか益々深まって行き、皆その生涯を神の存在と働きの内に生き抜きました。「人間の想像力は貧しく有限で、無限の神を思い描くことなど誰にもできない。しかし神の存在を想像することができないことと信じないこととは、同じではない。どう生きるか、いかに行動するかこそ、信仰のより正確なしるしなのだ。」このことを私たちは忘れてはならないと思うのです。



[目次](#)

目 次

☆ 聖句	H. Y.	・ ・ ・	2
☆ 巻頭言	傘木 澄男 神父	・ ・ ・	3-4
☆ 目次		・ ・ ・	5
☆ 洗礼・堅信		・ ・ ・	6
☆ 初聖体・トゥアン神父様初ミサ		・ ・ ・	7-8
☆ 赤波江神父様送別		・ ・ ・	9-10
☆ サムエルナイト		・ ・ ・	11-12
☆ 松浦司教様司牧訪問		・ ・ ・	13-14
☆ (2014 年度小教区総会・評議員氏名)		・ ・ ・	(14)
☆ カテドラルと甲山墓地見学会		・ ・ ・	15
☆ ブラッドリー神父様ご着任		・ ・ ・	16-17
☆ バーベキュー大会		・ ・ ・	18-19
☆ 教会学校サマーキャンプ		・ ・ ・	20-21
☆ 図書コーナー「雪の夜」		・ ・ ・	22
☆ (教会日誌・信徒動静)		・ ・ ・	(23)
☆ 後記		・ ・ ・	23

題 字 J. Y.
表紙画 A. H.

《洗礼、堅信おめでとうございます》

4月19日、復活徹夜祭にて、7名（内2名は中央教会）の方が受洗されました。
引き続き堅信を受けられ、神様の祝福のうちに新しいお仲間をお迎えすることができました。
心よりお喜び申し上げます。



2014年4月19日

ディンプナ

K. K.

セシリア

Y. K.

高山右近

H. S.

ベルナデッタ

E. S.

マリア

A. M.

ヨセフ・ジョルジョ

T. Y.

ペトロ

K. Y.



[目次](#)

《トゥアン神父様の初ミサ、初聖体》

4 月 20 日、復活祭のミサをトゥアン神父様が司式なさいました。
この住吉教会にしばらくお住まいになられていたトゥアン神父様、思い出深いこの教会で初めてのミサでした。
神父様のお優しいお人柄が滲み出る、あたたかいお説教に続き、4 人の子供たちが初聖体を授かりました。



学校のお勉強は何が好き？



初聖体おめでとうございます。

ガブリエラ	M. K.ちゃん
クララ	R. O.ちゃん
アジジのフランシスコ	R. O.くん
ミカエル	R. M.くん



恒例のお立ち台
好きな食べ物は？



トゥアン神父様も
お立ち台



[目次](#)

《 赤波江神父様お元気で 》

7 年間住吉教会でご指導下さった赤波江神父様が 6 月 1 日付で高松教区へ出向されてから 2 か月たちました。当教会で共に歩んで下さった日々は皆の心に残り、これからの歩みの礎となる事でしょう。

子供達には、夏休みの巡礼旅行や教区行事等の侍者、務めた後のごほうび？の焼肉屋さん。教会行事での手伝いや晴のお祝い時に御立ち台で受ける数々の質問等から、夢を持つこと、友を持つこと、次の教会を担う人になることを自然に悟るように指導されました。



2010 長崎巡礼平和祈念公園



教会学校最後の日に



「辛いことを抱えていても表に出さず明るく振舞っている人もいます。」

「たとえどんな時にでも蜘蛛の糸一筋の希望でも持ち続ける事。」

「単純な心の信仰を持ってください」

ふとした時に言われた言葉も忘れられません。きっと信徒の悩みや苦しみ、喜びに、共に寄り添いたいと心向けられた日々も多かったのでしょう。

又、病気の方々は、神父様のご訪問とお祈りにどれほど力づけられ心癒されたことでしょう。

5 月 18 日(日)に行われたお別れミサの日は他教会からのお客様や幼稚園の先生方、多くの子供達や青年、信徒の方々に聖堂はいっぱいになりました。



「住吉教会は素晴らしい教会です。が、困難な問題が起こった時には逃げるのではなく、チャンスと考え、皆で解決の道を求め前に進んで行って下さい。」

「どの駒が欠けても完成しないジグソーパズルのように、一人一人はこの教会の大切な駒です。」

「辛い事も流す涙もその意味を悟り、主の十字架の一端を担って下さい。心を騒がせるな、心配するな、あなた達の為に場所（役割）は用意されていると書いて

あります。」と当日の御言葉を引用され話されたお説教は心に深くとどまっています。

「信徒の方がよく見えるように・・・」とのお父上の言葉を守られ、いつもご聖体と御血を高く挙げられ、私達によく見えるようにしてくださいました。

小さな子供達には祈りを込めて祝福を、信徒にはご聖体を授けて下さいました。



ミサの後、25年前に叙階された時のビデオが上映され、お別れの持ち寄りパーティーがホールと出会いの広場でありました。大阪教区に御用で来られる時には、是非お立ち寄り下さい。その時々には、大切になさった子供達が神父様の願われたように教会の明日を担い、益々温かい家族のような、どの駒にも居場所のある教会を育てる力となっている姿をお見せできますように。

感謝 編集部



[目次](#)

《サムエルナイト》

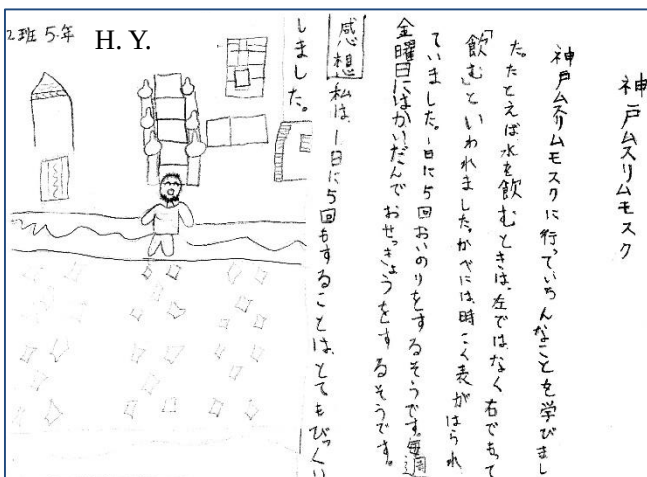
2014 年 5 月 24～25 日

毎年恒例の神戸中央教会・住吉教会合同お泊り会『サムエルナイト』が 5 月 24 日、25 日にありました。今年の会場は神戸中央教会。テーマは《諸教派の枠を超えて・・・》ということで、北野の街を散策しながら、インドのジャイナ寺院とイスラム教会に見学に行きました。



「サムエルナイト 2 日目」 早朝散歩・お食事・お掃除をして、赤波江神父様神戸中央教会最後の司式ミサに与りました。「子供とともに捧げるミサ」の日だったので、先唱・朗読・侍者・奉納・献金などのお役を子供達で頑張りました。年を重ねるごとに家族のように仲よく過ごせ、楽しい有意義な 2 日間になりました。主に感謝!!

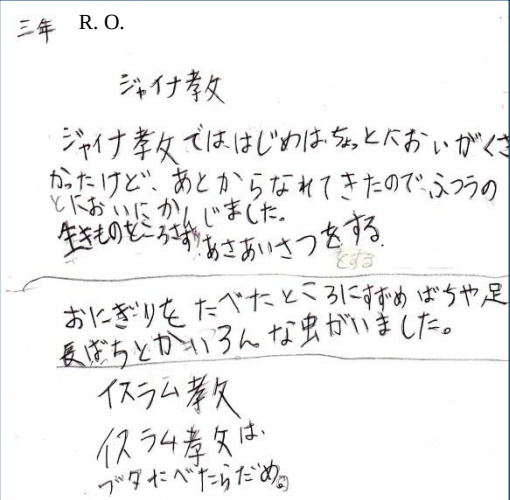
お手伝いくださった多くの方に心からお礼申し上げます。（教会学校リーダー）



ムスリムモスクでお話を聞きました



ジャイナ教の寺院へ



モスクで赤いじゅうたんが気持よかった。
 やかに頭をつけておいのりあのかみぐりし、
 像がなかった。
 イスラム教とキリスト教はにていると思った。
 Y.

六年 M.S.

私は他の宗教所を見に行き、この世界には、色々な宗教があ
 ってびっくりしました。最初に行、た建、て物は、インドの宗教で、
 大理石がありました。次に行、た宗教は、イスラム教でした。
 赤いじゅうたんがありました。イスラム教の建物は、ドーム
 の形をしていました。その宗教で、お、と、う、い、た、事、は、男、性、
 女、性、用、の、お、祈、り、す、る、場、が、そ、れ、ぞ、れ、ち、が、う、ち、で、す。
 こ、れ、か、ら、も、カ、ト、リ、ッ、ク、以、外、の、宗、教、も、見、て、行、き、た、い、で、す、



朗読も上手にできました



[目次](#)



《松浦司教様 司牧訪問》

6 月 8 日 聖霊降臨の祝日

2 年振りの松浦司教様司牧訪問。前回のご訪問も聖霊降臨の祝日だったと伺い、大きな祝日を二度もご一緒できる偶然は、私どもにとって大きな喜びでした。

始めに

「全世界の教会と共に聖霊降臨を祝い、聖霊に力づけられ神の国のために力強く働く教会になるよう祈りましょう。また昨日教皇様から全世界に出されたメッセージに従い、今日イスラエルとパレスチナの和平をお祈りになる教皇様と心を合わせましょう。」と司教様からお言葉がありました。

お説教

聖霊降臨を 2 つのポイントでお話し下さり、教会の役割を明確にして下さいました。

1：神の側からの救いのわざが完成した

神のもとを離れた人間に対し、神は長い時間をかけて語り続けてこられた。そして救いのためにイエスが送られ、命さえも与え尽くされ、神と人間の間の壁が取り払われた。聖霊降臨は「神からの救いのわざの完成」である。人間の側からは、その与えつくされた神の救いの業に応え続けることが残されている。ただ、それは「後は人間だけで応えなさい」という意味ではない。

かつて人間は預言者を通した神の間接的メッセージに応じて生きてきたが、イエスは神ご自身の言葉を、直接人間に語り、愛を示された。そしてその死と復活と聖霊により、今やすべての人の人生の中に存在する。我々と完全にひとつになって救いに向かって歩んでくださる。つまり、人となったイエスと共に聖霊に導かれ、神の国の完成まで歩むということなのである。

2：聖霊降臨は教会の誕生日

聖霊の働きを目に見える形で人々に提供し伝える役割を担うのが教会である。今日の朗読で、弟子達がマリアを中心にひとつになって祈っている時、舌の形をした聖霊が一人一人の上を下る場面がある。つまり「共同体」に聖霊が下り教会が誕生した。また各人は、違う賜物を持った聖霊を受けた。つまり人生の中で、皆それぞれに神をあらわし神を告げるように聖霊を頂いた。教会と秘跡を通して我々は神の赦しを体験する。神の恵みを実際に認識するからこそ、教会として「目に見える形」で人々に力強く神の赦しを伝える事ができる。





最終的に我々はどこに向かうのか？

今日の福音には「一人一人が違う言葉を持ちながら皆がひとつのことを聞いた(理解した)」とある。いま世界には様々な宗教、色々な考え方、対立もある。しかし神の心はあらゆるものをひとつにする。救いとは神のいのちの中ですべての人が和解することであり、教会はすべての人の救いのために奉仕する役割を担っている。

聖霊によって生まれた教会の最終目標＝神の救いの完成に向かい、聖霊の恵みに力づけられ、扉を開いていきましょう。



ミサ後

信徒からの質問タイムでは子供達のかわいい質問から共同司牧のあり方まで、丁寧にお答え下さいました。当日の午後は城星学園の「右近フェスタ」がありお忙しい中での住吉教会ご訪問。松浦司教様、本当に有難うございました。(編集部)

[目次](#)

《 教区納骨堂、墓地見学会に参加して 》

私達の先輩方が永久の眠りについておられた住吉教会の納骨堂は、(旧聖堂横の庭にあったなつかしい石造りの納骨堂から新聖堂建設後は小聖堂奥に新設された祈念堂になった)国の法律の関係で今回閉じられる事になり、お預かりしていた大切なご遺骨は、新たに他所に移されることになりました。その一環として 2 度にわたり教区の管理する 4 か所の墓所見学会が行われました。

6 月 28 日 (土) 大阪カテドラル聖マリア大聖堂納骨堂・甲山墓苑

7 月 26 日 (土) 舞子墓苑・鶴越墓苑とべら地区

第 1 回目の 6 月 28 日 (土)、教会準備のバスで大阪カテドラル聖マリア大聖堂内の納骨堂と、甲山墓苑にある大阪教区の新設された共同納骨所見学会に参加しました。当日は 25 名の参加者でした。

教区の林課長と松本さんが詳しく説明して下さり、数々の質問に丁寧に答えて下さいました。

今回大切な方々のご遺骨を納めると共に、いつかは自らも安らかな眠りにつく所として参加者は熱心にお話を伺いました。

其々は趣旨も(前所は個々のブースになっておりご遺骨は骨壺に収められ形は残る。後所は合同の墓碑でご遺骨は布袋に収められいつかは土に戻る)置かれる場所も(前所は大都会の真ん中大阪カテドラル聖堂内。後所は西宮市の広大な墓苑の一角にあるカトリック大阪教区の墓所地。青空と山々に囲まれた大自然の中)正反対ですが、両所とも祈りの内にあり、主の元に憩える安らぎを感じました。

(編集部)

おはようございます



大阪カテドラル大聖堂内納骨堂



西宮甲山墓苑内カトリック墓所

[目次](#)

《ブラッドリー神父様ご着任》

7月20日 共同司牧のブラッドリー神父様のご着任後、初めて住吉教会でミサをあげて下さいました。「人間を救う神」を優しいトーンの滑らかな日本語で語って下さったお説教は、私たちの心に深く響くものでありました。

ブラッドリー神父様がこれから住吉教会と私たちを導きともに歩んで下さる幸せに感謝します。
(編集部)



お説教から

マタイの毒麦と良い麦のたとえ話の中で「本当に毒麦か良い麦か今は分からない」の部分に焦点をあてお話し下さいました。世の終わりに裁きがあるというより「今は」裁かない神、つまり私たちの神は「人間を裁く神」ではなく「人間を救う神」です。人間は毒麦（悪）を今すぐ排除しようとしませんが、神の見方は違います。すべての判断は神にあり、神は十分に回心への時間を与えて下さいます。単なる寛容の教えというのではなく、誰をも切り捨てる事のない神の国のありかた、イエスご自身の生きた姿がそこに見えます。

どうすれば人間が本当の意味で良くなる事が出来るのか？いつもその答えを、イエスの生き方とメッセージの中を探していきましょう。



苗字はロザイロ
名はブラッドリー

「ブラッドリー神父」と
呼んで下さい



ロザイロ ブラッドリー神父（オブレート会）

1964 年生まれ スリランカ出身

1992 年 8 月 22 日 司祭叙階

メッセージ

私にとって日本でのミッションは、

1. 信徒たちの信仰を育てていくことです。そのためにミサや黙想会やみ言葉の分かち合いなどをこれからもやっていく必要があると思います。

2. 教会以外の働きです。地域社会の中に積極的に入って、その人々に関わること。それによって困っている人や心の病を持っている人と出会い、その人の苦しみや悲しみを少しでも分かち合うことがミッションだと思います。これからの日本の社会を考えると、このかかわりの方が必要とされて来ていると思います。

この二つのことがブロックレベルで実現出来たらと思います。

（カトリック大阪教区神戸地区「つながり」から）

※ミサ中の引用箇所

☆エゼキエル 33 章 12 節

私は悪人の死を喜ばない。むしろ悪人がその道を離れて生きるのを喜ぶ。

☆ペトロの手紙Ⅱ 3 章 15 節

私たちの主の寛容は救いのためであると思いなさい。

☆知恵の書 15 章 1 節

神よ、あなたはいつくしみ深く真実な方。怒るに遅く、すべてを治める憐れみ深い方。

[目次](#)

《バーベキュー大会》

7 月 27 日午後 5 時より恒例の住吉教会納涼バーベキュー大会が行われました。心配された雨も始まる頃には止み、多少の涼しさを運んでくれたようです。

7 名の神父様もお越しくださり、なごやかで楽しいひとときを過ごしました。



ブラッドリー神父様の初めのお祈り



受付のお手伝い



オマリー神父様と
中央教会の方々



ブラッドリー神父様とペンケレシ
神父様、ご歓談中

おいしい？



六甲教会アルフ
レッド神父様



傘木神父様と赤松神父様

幅広い年代の!? 青年たち



これ、もう
焼けてる？



キュートな
お嬢さん達



From 高松 赤波江神父様ご到着

全員集合！記念撮影。みなさんいいお顔



(編集部)

[目次](#)

《 教会学校サマーキャンプ 》

7月29日、晴天の暑い日、教会学校のサマーキャンプが行われました。
今年は福島の子供たちとの合同キャンプが別にあるため、住吉教会のキャンプはお泊りなしのデイキャンプで、ポートアイランドの青少年科学館への遠足、その後教会に戻ってカレーの夕食をみんなで頂き、ビンゴゲームや花火を楽しみました。



ブラッドリー神父様
のお話を聞いて・・・



青少年科学館へ出発！



みんな真剣





みんなそろって
はい、チーズ



アイデア浮かんた？

みんなでカレーをいただいた後はゲームタイム



《図 書 案 内》

「雪の夜」 小林敬三 著

女子パウロ会刊

神父様方の説教集・講話集が出版され、居ながらにして遠くの教区の神父様の講話を読むことができるのは嬉しいことです。

本書は東京大司教区の小林敬三神父様の講話集です。司祭叙階の折に受けたアドバイス「絶えず自分の考えの幅を広げていくように。できるだけたくさんいろんな分野の人のエッセイを読んでミサの説教に生かしてください。」という言葉に応え、福音の解説に先立って折々の「今」の出来事を取り上げ、信徒の福音理解に役立つように努めてられました。

神の似姿としての人間・人格の持ち主というのは、心の中にギターのような共鳴箱を持っており、弦は神の声、共鳴箱は人間の人格、弦から届けられる音に見事に共鳴するように創られているのが人間である。だから時々人間の心にひびやゴミが入ってしまうと神様の声がよく奏でられなくなる。世の喧騒の中にあって又自らの弱さに妨げられながらも、まことの羊飼いである主イエスの言葉を聴き分ける心の耳を大切にしたいという、神父様の言葉はいつも心に留めておきたいものです。

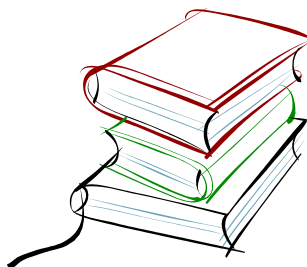
感銘を受けたところを紹介すると 『登山で無事に下りて来た人は自分の力で下りてきたと思いがちである。だが、よく見渡して見ると大きな岩には必ず鉄のはしごが掛けられていたり、はしごも掛けられない大岩にはボルトが打ち込まれ鉄の鎖が付いている。そして標識やあちこちの岩に○や×が白ペンキで記されている。これらは地元の山岳会の人達の適切な親切、危険に満ちた大変な作業である。私たちが生きてきたこれまでの年月と果たしてきた仕事にはどれ程大きな神の恵みと導きがあったろう。そして共に生きてきた数えきれない沢山の人々、すでに故人となった人を含めて善意と協力。私たちは神と人々に陰に陽に助けられ、この協力によって生かされている。』これらの小林神父様の講話は静かに心に届けられる。

書名となった「雪の夜」には著者がまだ小学生だった頃、父親が亡くなり母の手一つで兄妹 6 人が育てられ、その母に対しての思い、母親の子供に対する思いが記されている。

母の反対を押し切って司祭に叙階された日、母が言った「神父様、母さんも信者になるよ」。そして帰宅して泊まる時のふとんは母の手製で、上げ下げも兄妹たちにも手を触れさせないというのは、我が子でありながら、最早我が子ではなく神様に奉げられたもの、神様が特別の御用にお使いになるもの、という気持ちは尊く、それ故著者にも忘れがたい思いで、信徒たちにも注がれている心であろう。

短い説話の中に沢山の思いがあふれかえっている。

(Y.I.)



[目次](#)

《後 記》

この度広報チームの一員に加えていただきました。

見えないところで多くの方が奉仕されていることに改めて感謝の念が湧いております。

仕事から帰ると時間との戦いの毎日、お引き受けするのは時期尚早でご迷惑をおかけするのでは…との迷いに、「先は長い！できる時にできる事だけでよいよ。」との先輩の温かく、甘〜いお言葉。これも神様がお与えくださったのかも…と思えました。

教会に来られている方には「一体感」を、初めて来られる方には「身近さ」を感じていただけるような発信をしていければ嬉しいです。

神様どうぞ私の言葉と考える足りない所をあなたの聖霊のお力で補ってくださいませ。

(T.Y.)

お姉様方からバトンを受取り、新メンバーでの広報チームがスタートしました。

皆様のご協力のもと、限られた時間を精一杯使って仕上げたのが今回の被昇天号です。

これまで美しい作品をご提供下さったT様に代わり、この度は教会学校の6年生が表紙画を描いて下さいました。御子を抱かれるマリア様の優しい表情に、住吉教会全体の雰囲気を見るような気がします。マリア様のようにひたむきに、しかし力強く歩みを進めたいと思います。どうぞ甘口辛口のコメントをお寄せ下さい。

(N.S.)



教会案内

ミサ

主日ミサ	日曜日	9:30
	第1・第3土曜日	19:30
	スペイン語	

週日ミサ	火・金曜日	9:00
------	-------	------

講座

信仰講座	第2・第4日曜日	11:00
信仰の分かち合い	第2・第4日曜日	11:00
聖書研究	第1・第3金曜日	10:00
教会学校	第1・第3土曜日	14:00~16:00

対象：小学校1年生～6年生

<u>評議会</u>	第3日曜日	11:00
------------	-------	-------

<u>野宿者支援炊出し</u>	第1土曜日	9:30 住吉教会集合
-----------------	-------	-------------

「すみよし」第193号

発行日	2014年8月15日
発行責任者	ブラッドリー神父 コンスルタ神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町 2-18-23 カトリック住吉教会

TEL 078-851-2756

FAX 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>